

日韓の日本語専攻・韓国語専攻学生の 就職活動に関する認識*

— キャリア支援の基礎調査 —

松崎真日**・磯野英治***・検校裕朗****

【要旨】

日本や韓国の高等教育機関においては「キャリア教育」、「キャリア支援」が行われているが、共通教育や就職支援組織での実施に留まり、専攻での教育には広がっていないといえる。同様にキャリア教育の不在は、日本における韓国語専攻、韓国における日本語専攻においても明らかである。日本における韓国語教育や韓国における日本語教育を論じた文献において「キャリア教育」や「キャリア支援」という用語は、日韓の高等教育機関における教育内容の比較として出てくることはあっても、それぞれの言語を専攻する学生達のキャリア教育や支援に焦点を当てた議論がほとんど見られない。

このような現状の中、本研究では日本の韓国語・韓国語専攻の日本人学生、および韓国の日本語・日本学専攻の韓国語専攻の韓国語専攻の日本人学生を対象に、就職活動に関してどのような認識を持っているのかについて実態調査を行った。調査は、日本人学生8大学79名、韓国語専攻の韓国語専攻の日本人学生12大学102名を対象に実施した。その結果、就職準備から進路選択までの過程において、その認識に日韓で異なる点(専攻の活用、進路のイメージ、実際の進路など)が認められた。一方、全体として、進路選択において専攻を生かすことができるような支援を専攻教育において実施していく余地があること、留学の経験が専攻を生かした進路選択に大きな影響を与えていること、また就職・進路情報提供において課題になっていること存在を明らかにし、学部における専門教育をキャリア支援の観点から充実させる必要性を明らかにすることができた。

キーワード：日本語専攻、韓国語専攻、キャリア支援、認識調査、専攻分野と進路

1. はじめに

日本と韓国は、政治・文化ともに交流の歴史が深く、日本で韓国語や韓国文化を学ぶ学生、韓国で日本語や日本文化を学ぶ学生も昔から多い。しかしながら、これらの人材が有意義に活躍するための政策や大学における体系的な進路支援が確立されているとは言い難く、そのほとんどが学生個人による自助努力に委ねられてきている現状がある。

* 本稿の調査、研究は日本学術振興会の基盤研究(C)研究課題番号19K02875「日韓の韓国語専攻・日本語専攻の学生が架け橋となるためのキャリア支援に関する研究」(研究代表者:松崎真日)の助成を受けて行われたものである。

** 福岡大学 准教授、韓国語教育学(第1著者)

*** 名古屋商科大学 准教授、日本語教育学(交信著者)

**** 極東大学校 教授、日本語教育学(交信著者)

日本の高等教育機関においては「自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」(文部科学省中央教育審議会(2011)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」)に対する教育・支援として「キャリア教育」、「キャリア支援」が行われているが、共通教育や就職支援組織での実施に留まり、専攻での教育には広がっていない。同様にキャリア教育の不在は、日本における韓国語専攻、韓国における日本語専攻においても明らかである。日本における韓国語教育や韓国における日本語教育を論じた文献において、「キャリア教育」や「キャリア支援」という用語は、日韓の高等教育機関における教育内容の比較として出てくることはあっても(安井・宮前 2009など)、それぞれの言語を専攻する学生達のキャリア教育や支援に焦点を当てた議論がほとんど見られない。

一方、本研究課題の嚆矢となる研究として、外国人が韓国で仕事をするために必要な試験(EPS-TOPIK)の実証的分析(吹原・松崎・助川 2015, 2016, 2018)や日本語学習者が実際の社会で必要な日本語を習得できるような教材・検定の開発(磯野・西郡 2017, 磯野2019)、高等教育機関と社会のつながりを考察した研究(鄭・檢校・金・車・小野・松浦 2015, 松崎2018)等がある。しかしながら、専攻の学生の就職や進路の実態調査、キャリア支援に関する分析や方法についての具体的な議論もほとんど行われていない状況にある。

このような状況の中、民間レベルでの相互理解とその質の向上が期待される現代社会において、その社会的要請に応えるための「日韓で学ぶ韓国語専攻・日本語専攻の学生が両地域の架け橋となるためのキャリア支援」が本研究の大きなテーマである¹⁾。当該テーマでは、日韓の学術・文化交流の中心を担っている筆者らが、①日韓学生のキャリアに関する認識と実際の進路について実態を明らかにした上で、②モデルとなるカリキュラムと動画教材を開発し、③誰にでも活用可能な形で公開することで、日韓における人材活用の新しい幅を提供するとともに、日本および韓国に対する社会文化的理解に寄与することを目指している。

このうち、本研究では①における日本の韓国語専攻の日本人学生、および韓国の日本語専攻の韓国人学生に焦点を絞り、就職活動に関してどのような認識を持っているのかについて実態と問題点を明らかにし、かつ分析することによって、今後の学生へのキャリア支援のためのカリキュラム作成、およびビデオ教材制作に向けた示唆を得ることを目的とする。

2. 調査概要

日本の韓国語専攻の日本人学生および韓国の日本語専攻の韓国人学生が、就職活動に関して持っている認識を探るために、アンケート調査を実施した。調査の概要は以下の通りである。

まず調査対象であるが、日本の大学で韓国語を専攻する大学生、および韓国の大学で日本語を専攻する大学生のうち、就職活動を行い就職先が決定した4年生を対象とした。大学4年生に限定したのは、就職活動に取り組んでいる学生の実情を把握することを考慮したためである。広く大

1) 本論文で調査対象とするのは、厳密には韓国語学専攻者以外に文学や歴史などを含む、いわゆる韓国学専攻者や、同様に日本文学や日本史などのいわゆる日本学を専攻する学生も含まれているが中心的ではないため、冗長を避けるために以降ではまとめて韓国語専攻、日本語専攻と記述する。

学生の一般的な認識を探るのであれば、就職活動に本格的に取り組む以前の1～3年生を対象に含めることもできるであろうが、本調査では就職活動を経験した4年生の認識を把握するという目的の下、4年次在籍学生のみを対象とした²⁾。

調査時期は、2019年9月から10月にかけて、日韓で同時に行った。調査方法はグーグルフォームを利用し回答してもらう方式をとった。設問は9項目あり、多肢選択で回答するものと、自由記述にて回答を求めるものがあった³⁾。質問は、専攻分野と就職先との関係を問うものが中心で、認識に関する質問と、実際に活動した中での経験や、決定した就職先に関する質問を中心に尋ねた。韓国の大学は2月卒業、日本の大学は3月卒業であることから、卒業の4～6か月前における認識を調べたといえる。

対象者への調査協力の依頼であるが、筆者らのネットワークを通じて、日本で韓国語や韓国学の専攻教育に携わる専任教員と、同様に韓国で日本語または日本学の専攻教育に携わる専任教員の協力を得て行き、対象者には調査に先立って画面上で調査の趣旨説明を表示した。また、調査の最後に本調査への協力の可否を問う質問項目を設けた。

以上の方法で調査を行った結果、最終的に、日本の韓国語専攻については74名(8大学)、韓国の日本語専攻については102名(12大学)を有効回答として集計することができた。

3. 調査結果

ここでは調査の結果を、日本における韓国語専攻と韓国における日本語専攻に分けて記述することとする。

3.1 日本における韓国語専攻

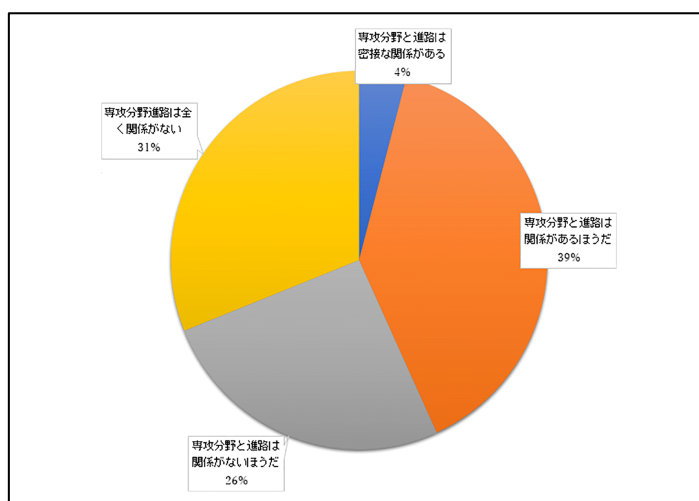
3.1.1 就職先と専攻分野の関係に対する認識

決定した就職先と専攻分野の関係について、「あなたの選択した就職/進路は、大学での専攻分野とどのくらい関係があると考えますか？」と尋ね、回答を4つの選択肢から選んで回答してもらった⁴⁾。結果は、「密接な関係がある」が3名、「関係があるほうだ」が29名、「関係がないほうだ」が19名、「全く関係がない」が23名であった。割合をグラフで示すと以下ようになる。

2) データ収集の過程では1～3年生の回答も一部含まれていたが、集計にあたり、これらのデータは除外した。また、進学予定である者も除外している。

3) 詳細は付録を参照。

4) どちらともいえない」という中間の選択肢を設定し、5択にする方法もあるが、その場合、曖昧さが許され、回答者の心理的な負担は小さくなる。しかし、「どちらでもない」という選択肢を敢えて設定せず4択にすることで、回答者はYesかNoのいずれかの意思表示をしなければならなくなり、曖昧さを回避できる。今回は、アンケートを通したアセスメントを集計するという観点において、肯定的傾向と否定的傾向のどちらなのかという意味表示を抽出する目的の為に、4択方式を採用した。

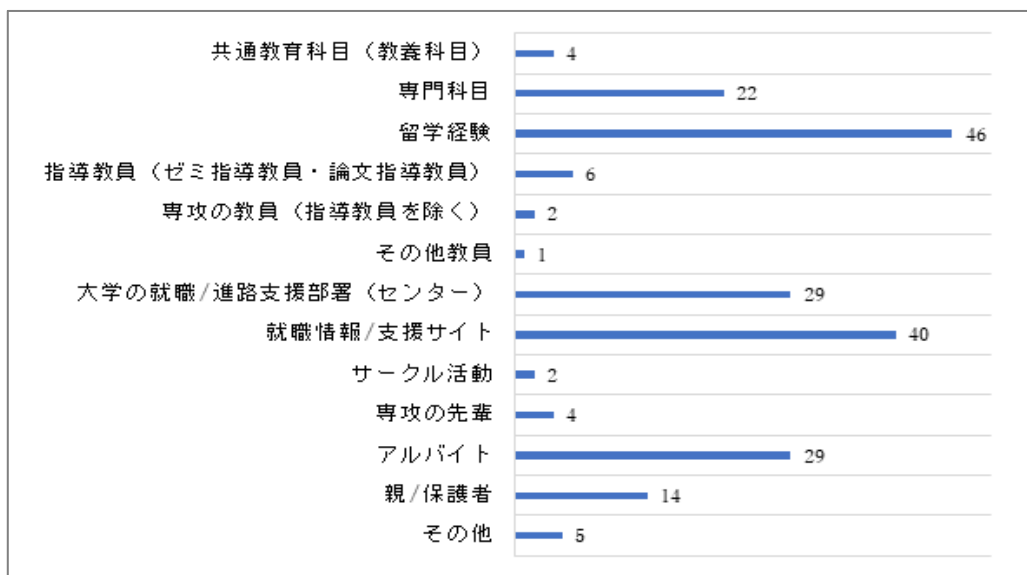


〈図1〉 韓国語専攻:決定した就職先と専攻分野の関係の認識

3.1.2 就職先を検討するにあたり役に立ったもの

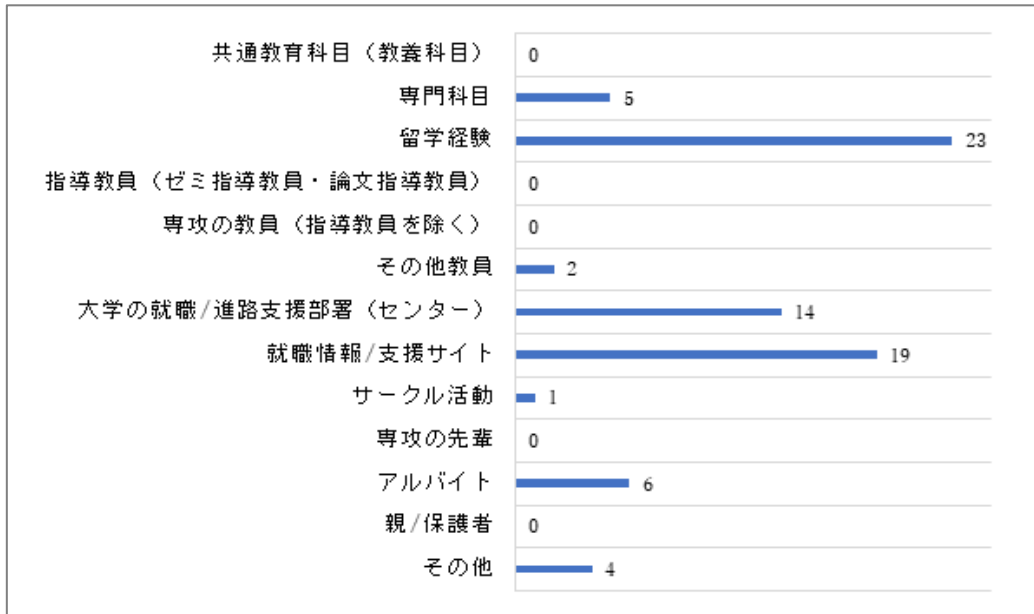
就職先を検討するにあたり何が役に立ったと考えているかについて、役に立ったもの3つと、最も役立ったもの1つを尋ねる質問をした。質問形式は客観式としたが、選択肢に該当するものがない場合には、自由記述で回答してもらった。

回答結果のうち主なものを挙げると、留学経験(46名)、リクナビやマイナビなどの就職情報サイト(40名)、アルバイト(29名)、大学の就職/進路支援部署(29名)、専門科目(22名)であった。次のグラフは、回答結果を示したものである。



〈図2〉 韓国語専攻:就職先検討に役立ったもの(複数回答)

次に、最も役立つものについての回答を見ると、主なものとして、留学経験(23名)、就職情報サイト(19名)、大学の就職/進路支援部署(14名)、アルバイト(6名)、専門科目(5名)が挙げられた。



〈図3〉韓国語専攻:就職先の検討に最も役立つもの

3.1.3 専攻を生かすことができる仕事に関する認識

専攻を生かすことができると考えられる仕事について、複数回答可で回答を求めた。自由記述であったため様々な回答があったが、それらをまとめた形で示すと次の表のとおりである⁵⁾。特に多かったものとして、空港・航空(46名)、通訳・翻訳(41名)、宿泊(34名)、旅行・観光(34名)、教育・研究(21名)があった。その他、貿易(7名)、公務員(6名)、サービス(3名)等の回答が見られた。

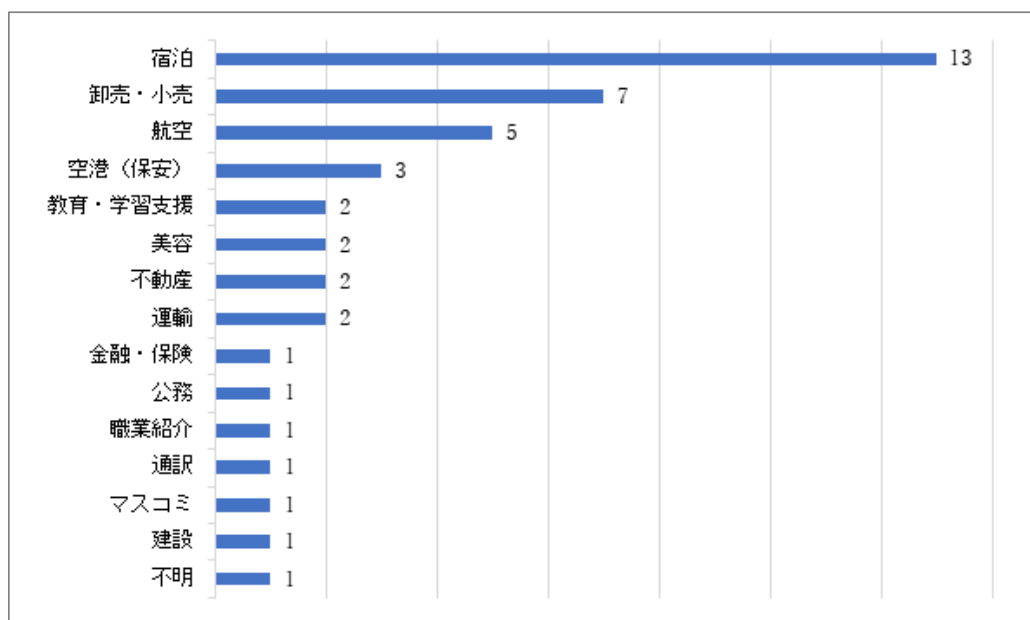
〈表1〉韓国語専攻:専攻を生かすことができるとイメージされる仕事

空港・航空	通訳・翻訳	宿泊	旅行・観光	教育・研究
46	41	34	34	21
貿易	公務員	サービス	人材派遣	マスコミ
7	6	3	2	2
製造業	営業	鉄道	免税店	保険
2	2	2	2	1

5) 例えば、ある回答者が、CA、グランドスタッフと二つの回答をした場合には、「空港・航空」としてまとめて1とカウントした。また、ある回答者が、CA、ホテルと回答した場合には、「空港・航空」と、「宿泊」にそれぞれ1をカウントした。したがって、数字は回答した者の人数を示している。例えば鉄道など旅行に含めてよいか判断に迷ったものがあったが、この場合は別の項目を立て分類した。

3.1.4 決定した就職先において、韓国語を使う機会があるか

決定した就職先で韓国語を使う機会がありそうかについて、「ありそう」と「なさそう」のいずれかによる回答を求めた。その結果、全体の58%にあたる74名中43名が「ありそう」と回答した。次のグラフは「ありそう」と答えた43名について、決定した就職先で実際に従事する仕事内容を示したものである⁶⁾。



〈図4〉韓国語専攻:韓国語を使う機会があると回答があった業種

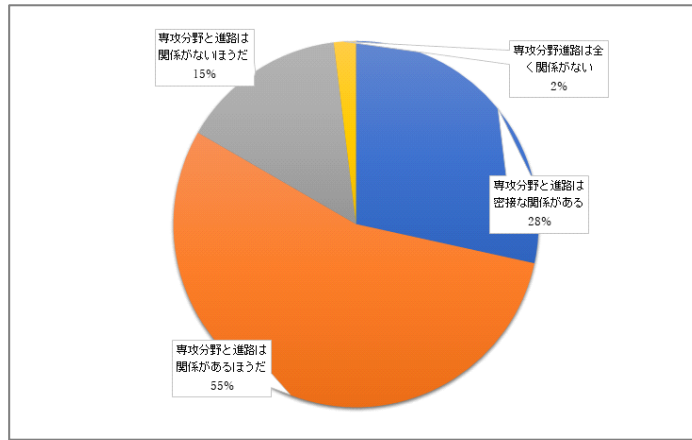
回答が多かった業種としては、宿泊業(13名)、卸売・小売業(7名)、航空(5名)、空港(保安)(3名)があり、教育・学習支援、美容、不動産、運輸、金融・保険、公務等で1~2名の回答が見られた。

3.2 韓国における日本語専攻

3.2.1 就職先と専攻分野の関係に対する認識

「あなたの選択した就職/進路は、大学での専攻分野とどのくらい関係があると考えますか？」という質問に対し、「密接な関係がある」という答えは29名、「関係があるほうだ」が56名、「関係がない方だ」が15名、「全く関係がない」が2名という割合であった。割合をグラフで示すと以下のようになる。

6) 質問⑥で示された業種と、質問⑧で示された仕事内容の情報から、実際の仕事内容が把握できることに留意して分類を行った。

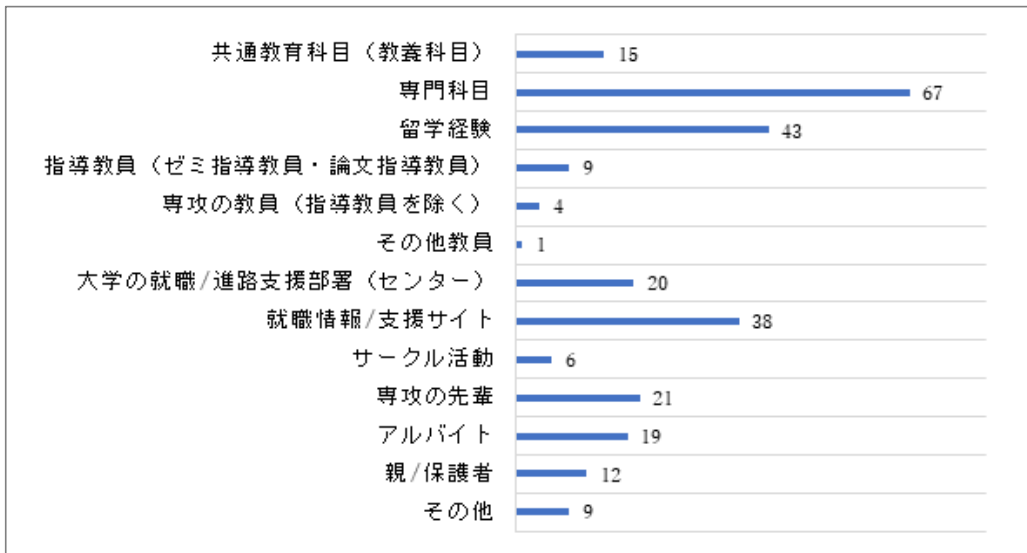


〈図5〉日本語専攻:決定した就職先と専攻分野の関係の認識

日本に密接な関係がある進路選択が4分の1を超えており、日本に関係がある進路選択者が約8割を占めていた。また、日本にあまり関係のない進路選択は2割未満であった。

3.2.2 就職先を検討するにあたり役に立ったもの

「就職/進路を検討する際に特に役立ったと考えるものは何ですか。該当事項の内、上位3つを選択してください。」という質問では、専門科目(67名)、留学経験(43名)、就職情報/支援サイト(38名)、専攻の先輩(21名)、大学の就職/進路支援部署(20名)、アルバイト(19名)という回答が多かった。次のグラフは、回答結果を示したものである。



〈図6〉日本語専攻:就職先検討に役立ったもの(複数回答)

また、最も役立つもの一つを回答した場合には、専門科目(34名)が最も多く、ついで留学経験(25名)、アルバイト(8名)、就職/情報支援サイト(6名)、大学の就職/進路支援センター(5名)の順であった。



〈図7〉日本語専攻:就職先の検討に最も役立つもの

3.2.3 専攻を生かすことができる仕事に関する認識

「専攻を生かすことができる就職/進路」についてできるだけ多く挙げてもらう設問では、自由記述であったため様々な回答があったが、多い順に、通訳・翻訳(77名)、旅行・観光(31名)、宿泊(31名)、貿易(27名)、教育・研究(24名)、IT(17名)、サービス(15名)、公務員(14名)などであった。それらをまとめた形で示すと次の表のとおりである。

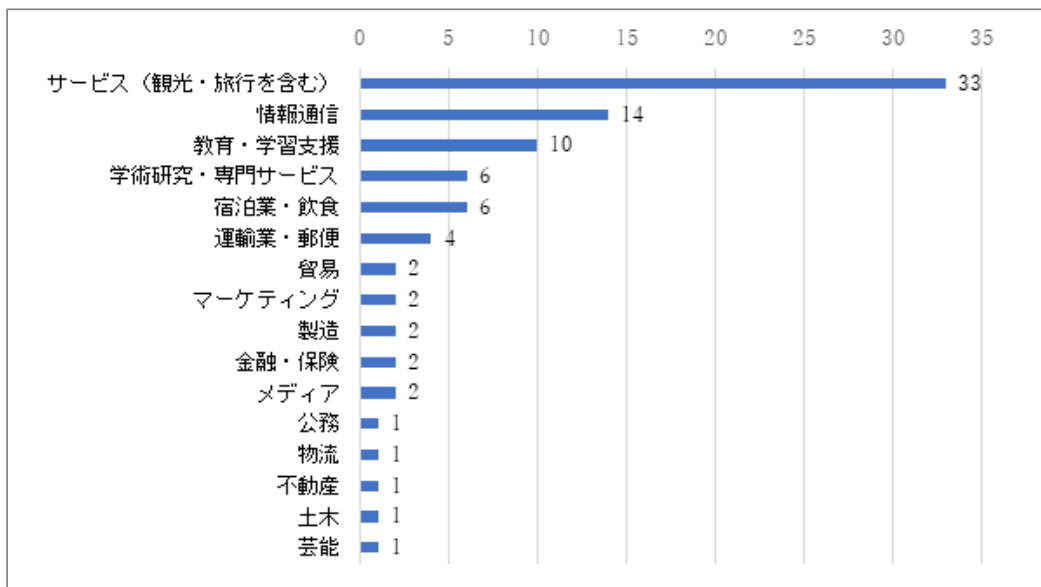
〈表2〉日本語専攻:専攻を生かすことができるとイメージされる仕事

通訳・翻訳	旅行・観光	宿泊	貿易
77	31	31	27
教育・研究	IT	サービス	公務員
24	17	15	14
航空・空港	マスコミ	販売	製造業
8	5	5	4
マーケティング	芸術	設計	コンサルティング
3	3	1	1

3.2.4 決定した就職先において、日本語を使う機会があるか

「決定した就職/進路で、日本語を使用する機会がありそうですか。」という質問に対しては、89名でおよそ87%の回答者が「ありそう」と回答した。

「ありそう」と回答した就職先を業種別に見ると、最も多い就職先はサービス業(観光・旅行業を含む)(33)であり、情報通信業(14)が次に続き、以下 教育・学習支援業(10)、学術研究・専門サービス業(6)、宿泊業・飲食業(6)、運輸業・郵便業(4)の順であった。1-2名の回答も多くあった。次のグラフは「ありそう」と答えた89名について、決定した就職先で実際に従事する仕事内容を示したものである。



〈図8〉日本語専攻:日本語を使う機会があると回答があった業種

4. 考察

ここでは上述の調査結果に基づき、韓国語専攻および日本語専攻の学生のキャリアに関する認識と実際の進路の関連性について考察するとともに、今後の専攻教育におけるキャリア支援の可能性について考察することとする。

4.1 専攻と進路の関連性

専攻と進路の関連性であるが、日本の韓国語専攻においては「専攻分野と進路が密接な関係にある」という回答はわずか4%であり、「関係があるほうだ」の39%を含めても半数以下の回答であった。また「全く関係がない」という答えが31%あったことも注目される。このことは、大学で専攻した韓国に関する知識やスキルが、進路に結びついていない学生が多いことを意味していると

いえる。日本において、韓国語専攻を設置している大学が少ないことを考えると、学生にとって当該専攻は希少価値があり、さらに両国間は人的移動にとどまらず、交易を含む経済的な結びつきが強いことを踏まえるならば、それにも関わらず韓国語専攻教育を通じて育成された人材が専攻に関係のない、あるいは薄い分野に進路をとっていること、つまりそういった分野に人材が供給されないことは、人材育成という面から見て課題が存在することを指摘できる。

これに対し、韓国の日本語専攻を見ると、密接な関係がある(28%)、関係があるほうだ(55%)で、全体のおよそ8割の学生は、専攻と進路が関連していると答えた。また、全く関係がないという回答はわずか2%であり、日本の韓国語専攻とは対照的である。韓国での日本語専攻は、日本での韓国語専攻に比べれば多くの大学に設置されているが、今回の調査で有効回答を得た102名に関して言えば、比較的多くの学生が日本語を役立てることができるところに就職できたという自己認識があったといえる。

以上の通り、専攻と進路の関連性においては、両専攻における傾向として進路の実態に違いが存在することが指摘できる。

4.2 就職に役立ったもの

次に、就職や進路を検討する上で役に立ったものについての回答を見ていくこととする。まず韓国語専攻者に対して、特に役に立ったもの3つを答えてもらう設問では、留学経験(46名)、就職・情報支援サイト(40名)、大学の就職/進路支援部署(29名)、アルバイト(29名)、専門科目(22名)、親/保護者(14名)といった回答が多かった。留学経験が最も多く46名が挙げているが、回答者74名の中には留学経験のない者も含まれていたことを考慮すると、留学経験が進路の決定に大きな影響を与えていたと推察される。なお専門科目と答えた者は4番目であったが、専攻課程の授業も一定程度役立っているとみることも可能であろう。

次に、最も役立ったもの一つを挙げてもらった設問では、答えが多かったものを挙げると、留学経験(23名)、就職・情報支援サイト(19名)、大学の就職/進路支援部署(14名)、アルバイト(6名)、専門科目(5名)であった。上位の3つについては、上位3つの回答のおよそ半分の回答者が残ったが、アルバイトと専門科目において、最も役立ったという回答が大幅に減少を見せた。進路の検討においては、留学を除けば、就職専門のサイトや、就職支援部署の影響力が大きいことがわかる。

留学についてであるが、韓国語専攻学生にとって、留学経験は進路選択に大きな影響を与えているといえる。最も役立ったものとして留学を挙げた23名のうち19名(82.6%)は、実際の就職先が専攻分野と「密接な関係がある」、または「関係があるほうだ」と回答したことも注目される。留学経験は、進路の検討において多くの知見をもたらしていることが窺える。加えて、専攻教育についても考えてみたい。専攻教育は留学とは違い、回答者全員が経験しているのみならず、4年間の学生生活の中心であったともいえるが、専門科目が進路検討において役立ったと考えた者は、複数回答では22名、単一回答では5名に過ぎなかった。専攻教育においては、多様かつ専門的で、体系的な教育が実施されているものと思われるが、残念ながら専攻学生が進路を検討する上でのヒントはあまり得られていないようである。これは裏を返せば、キャリア支援を実施していく余地があるとも言え、専攻教育の課題とみることができよう。

韓国の日本語専攻に目を転じると、多いものとしては、専門科目(67名)、留学経験(43名)、就職情報/支援サイト(38名)、専攻の先輩(21名)、アルバイト(20名)の順であった。回答者の過半数が専門科目を挙げたことは、日本の韓国語専攻との大きな違いといえる。また、専攻の先輩が4番目に入ったことも韓国の大学における学年を超えたつながりの存在をうかがわせるものといえよう。

最も役立つもの一つを挙げてもらう設問では、専門科目(34名)、留学経験(25名)の上位二つで過半数を占めた。専門科目と留学という学びが両輪として進路の検討に大きな影響を与えていることがわかる。なお、決定した就職先と専攻分野との関係を見ると、専門科目においては34名のうち32名(94.1%)が、留学経験においては25名のうち22名(88%)が、「密接な関係がある」または「関係があるほうだ」と答えており、専攻教育が進路検討に特に役立っていることが指摘できる。

以上のことから、両専攻において留学経験は専攻を生かした進路選択に役立っているといえる。また韓国語専攻においては専門科目がキャリア支援に結び付いていない傾向がうかがえることから、キャリア支援を行っていく余地が存在することを指摘しておきたい。

4.3 専攻を生かす職業イメージ

学生は専攻を生かすと考えている職業としてどのようなものをイメージしているのであろうか。調査では思いつくままにいくつでも自由記述で回答してもらった。

まず韓国語専攻の結果から見ると、自由な回答が可能であったにもかかわらず、特定の職種に回答が集中した。旅行、つまり主として人の移動に伴うサービスを想定したと考えらえる空港・航空(46名)、宿泊(34名)、旅行・観光(34名)、鉄道(2名)、免税店(2名)が大きな割合を占めた。特に、旅行業という回答よりも、空港や航空という狭い範囲での回答が最多であったことは、学生の関心が狭い範囲に集中していることを見せるものといえる。その他、語学のプロフェッショナルである通訳・翻訳(41名)、教育・研究(21名)も多かったが、貿易(7名)、製造業(2名)といった、物の移動や製造に関する関心が少ないことも特徴といえる。情報を扱う業種としては、マスコミ(2名)が挙げられたほか、人材派遣(2名)などの回答があったが、その数は少なかった。

上記の通り、韓国語専攻の学生においては、専攻を生かす職業のイメージが限られた特定の職種に結び付いていることが指摘できる。専攻と進路に関してステレオタイプが形成されている可能性があり、専攻で身につけた知識やスキルをどのように発揮することができるのかを含め、専攻教育においてキャリア支援を実施していく余地があるものと思われる。

次に、日本語専攻の結果であるが、回答数上位を見ると日本の韓国語専攻と大きく変わらない結果であった。語学のプロフェッショナルである通訳・翻訳(77名)、また主として語学教員をイメージしているとみることができる教育・研究(24名)が上位に入った。人の移動に関する仕事を挙げた者も多く、旅行・観光(31名)、宿泊(31名)であり、回答の傾向は似ており、語学と観光を中心に考えていることが分かる。ただ、韓国語専攻との比較をするならば、物を扱う仕事である貿易(27名)、情報産業であるIT(17名)に比較的多くの回答があったこと、航空・空港という非常に限定された業種の回答は少なかったことから、専攻の活かし方については、多少幅広くとらえていることも指摘できる。

4.4 専攻言語を使用する職種

決定した進路において専攻言語を使用する機会がありそうかとの質問に対して「ありそう」と回答した職種を見ると、韓国語専攻では、宿泊業(13名)、航空(5名)、空港[保安](3名)のように、学生の持つイメージと合致する職種も多いが、一方でイメージでは回答が多くはなかった卸売・小売(7名)をはじめ、1~2名の回答があった多様な職種においても使用する機会があるという回答が見られた。学生のイメージが間違っているわけではないが、実態として、イメージ以上に多様な仕事において、専攻を生かしていける活躍の場があることがわかる。韓国語を生かした職業が様々にあることなど、視野を広げるキャリア支援教育を専攻教育の中で行っていく余地があるといえよう。

同様に、日本語専攻について見てみると、専攻言語を使用する機会が多いと回答した学生は宿泊業において多いことがわかる。このことは、日本語を使用する職業イメージと合致するが、2番目に多かったものとして情報通信業[IT](14名)があった。イメージでは6番目であったが、専攻を生かした実際の就職先としては、存在感があることが窺える。情報通信業への就職には専門分野での知識やスキルが求められようが、このことは日本語の専門能力を育成するという狭い意味での専攻教育から、様々な専攻を持つ学生に対する副専攻としての日本語教育、あるいは経営学と日本語のようにふたつの専攻をもって卒業する複数専攻など、韓国の大学教育ならではのプラスアルファとしての日本語教育の需要の存在を示す結果であるとも見てとれる。韓国においては、大学生の就職が日本より厳しいことは周知の事実であるが、そうであるからこそ、日本語専攻教育においてはキャリア支援を実施する余地があるともいえる。日本語にプラスして、何を学ぶことで社会の需要や期待にマッチすることができるのかを考える機会を提供することは重要であると考えられる。

5. おわりに

本研究では、日本の韓国語・韓国学専攻の日本人学生、および韓国の日本語・日本学専攻の韓国人学生について、就職活動に関してどのような認識を持っているのかについて行った実態調査について論じた。その結果、就職活動の認識に日韓で異なる点(専攻の活用、進路のイメージ、実際の進路、進路先における専攻言語の使用機会など)が認められた。これらについては、学生の大学に対する意識や位置づけ、大学教育における制度上の違い、社会状況などが日韓で異なる点も含めて考えると、多少の違いが存在するのは当然であろう。むしろ重要なのは、日韓の専攻学生に通底した課題である以下の点であると言える。

- ①進路選択において専攻を生かすことができるような支援を専攻教育において実施していく余地があること⇒進路を意識させる授業の実施
- ②留学の経験が専攻を生かした進路選択に大きな影響を与えていること
⇒留学機会の増加

③専攻教育の中で、キャリア支援として、実態を知ることができる機会・情報提供が不足していること

⇒キャリア支援に関して学生の視野が広がる情報・機会の提供

上記のうち、特に①と③については、学部における専門教育をキャリア支援の観点から充実させる必要性和密接に関係するものであり、具体的な改善をしていくことのできる可能性があると思える。指摘できる。

以上のように本研究では、就職活動に関してどのような認識を持っているのかについて、日韓の専攻学生の実態調査の結果を比較し、その全体像と課題を明らかにすることによって、学部専門教育の重要性和改善点までを指摘した。今後は本研究で明らかになった日韓主専攻学生へのキャリア支援の第一歩として、学部教育で活用できるビデオ教材を制作することを研究課題とする。また本稿での議論は、日韓の専攻学生を対象とした調査に基づいたものであるが、他の専攻においても同じような状況にある可能性もあり、大学の専攻教育におけるキャリア支援について考える上で、参考になるならば幸いである。

◀ 参考文献 ▶

- 조항록(2017) 『다문화 사회와 한국어 교육』 한글피크, pp.1-301
- 林始恩・姜美眞(2018) 「就職のための日本語授業の方案-O大学のk-move授業の事例から-」 『日本語教育研究』第45輯, 韓国日本語教育學會, pp.113-128
- 磯野英治・西郡仁朗 監修(2017) 『実践日本語コミュニケーション検定ブリッジ問題集』 ウィネット出版, pp.1-127
- 検校裕朗・ニノ神正路(2014) 「非現地滞在型語学プログラムを目指した取り組み-極東大学校 Intensive Japanese Language Program-」 『日本語教育研究』第29輯, 韓国日本語教育學會, pp.49-67
- 齊藤明美・倉持香(2019) 「日本語学習者の就職に対する意識と企業が求める人材 -韓国におけるアンケート調査及びインタビューの結果を中心に-」 『日本語教育研究』第47輯, 韓国日本語教育學會, pp.107-126
- 齊藤良子(2018) 『初級韓国語学習者の学習態度の変容に関する研究』 ひつじ書房, pp.1-233
- 吹原豊・松崎真日・助川泰彦(2015) 「在韓インドネシア人移住労働者の韓国語習得 -渡韓前後の学習を中心に-」 第36回 異文化間教育学会プロシーディング, pp.156-157
- _____ (2016) 「韓国の雇用許可制語学試験(EPS-TOPIK)からみた就業前の言語習得について -試験方式と難易度からの接近-」 『国際社会研究』第5号, 福岡女子大学, pp.121-140
- _____ (2018) 「韓国のEPS-TOPIKについての総合的考察 -日本の大学生を対象とした模擬受験結果との比較をふまえて-」 『国際社会研究』第7号, 福岡女子大学, pp.41-59
- 田尻英三 編(2017) 『外国人労働者受け入れと日本語教育』 ひつじ書房, pp.1-231
- 鄭起永・検校裕朗・金熙靜・車尚禹・小野里恵・松浦恵子(2015) 「J-GAPを通して高等学校と大学と社会のアーティキュレーションを考える」 『日語日文学』66, 大韓日語日文学会, pp.191-208
- 西日本新聞社 編(2017) 『新 移民時代 -外国人労働者と共に生きる社会へ』 西日本新聞社, pp.1-255

- 松崎真日(2018)「知識と運用を実践に結びつける韓国語スピーチ授業とその学び」『福岡大学研究部論集 A: 人文科学編』第18巻2号, 福岡大学, pp.121-131
- 安井智恵・宮前耕史(2009)「キャリア教育をめぐる日韓比較に関する一試論 ―啓明大学校日本学科(韓国)「ビジネス日本語」における実践から―」岐阜女子大学紀要 38号, 岐阜女子大学, pp.83-94
- 山本晋也(2020)「留学生はいかに自身のキャリアを形成していくのか ―留学・兵役・就職を経験した韓国人留学生の事例から―」『日本語教育研究』第51輯, 韓国日語教育學會, pp.133-148

◀ ウェブ資料 ▶

- 磯野英治(2019)「実践日本語コミュニケーション検定ブリッジ 評価基準およびCEFR対応について」サーティファイコミュニケーション能力認定委員会 (<https://www.sikaku.gr.jp/c/pjc/bridge/criteria/>, 2020年8月31日閲覧)
- 文部科学省中央教育審議会(2011)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」, 文部科学省中央教育審議会 (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1303768.htm, 2020年8月13日閲覧)

【付録】「日本語・日本学を専攻する学生の就職活動認識調査」の調査項目

このアンケートは文部科学省の科学研究費「日韓の韓国語専攻・日本語専攻の学生が架け橋となるためのキャリア支援に関する研究(課題番号:19K02875)」の助成に基づき実施しています。お答えいただいた内容は本研究にのみ用います。また、ご回答いただいた情報は、個人・組織が特定されない形で統計的に処理します。

なお、現在就職活動中/進路検討中の方は、現段階での計画をご入力ください。また、「その他」の選択肢がある場合には「その他」を選択し、現在活動中である旨ご記入ください。

【質問①】あなたの選択した就職/進路は、大学での専攻分野とどのくらい関係があると考えますか？当てはまるものにをつけてください。

専攻分野と進路は密接な関係がある 専攻分野と進路は関係があるほうだ

専攻分野と進路は関係がない方だ 専攻分野と進路は全く関係がない

【質問②】上記質問①のように考えた理由は何ですか？

【質問③】就職/進路を検討する際に役立ったと考えるものは何ですか。当てはまるもののうち上位の3つについて、してください。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 共通教育科目(教養科目・全学共通の基礎科目) | <input type="checkbox"/> 専門科目 |
| <input type="checkbox"/> サークル活動 | <input type="checkbox"/> アルバイト |
| <input type="checkbox"/> 留学経験 | <input type="checkbox"/> 指導教授(【韓】指導(担任)教授) |
| <input type="checkbox"/> 指導教授以外の専攻教員(【韓】指導(担任)教授以外の学科教員) | |
| <input type="checkbox"/> 専攻以外の教員 | <input type="checkbox"/> 親からの情報 |
| <input type="checkbox"/> 大学の就職/進路センター | <input type="checkbox"/> 専攻の先輩からの情報 |
| <input type="checkbox"/> 就職情報/支援サイト(リクナビ・マイナビなど) | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記述してください) |

【質問④】上記質問③でしたもののうち、最も役立ったと考えるもの1つを選んでください。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 共通教育科目(教養科目・全学共通の基礎科目) | <input type="checkbox"/> 専門科目 |
| <input type="checkbox"/> サークル活動 | <input type="checkbox"/> アルバイト |
| <input type="checkbox"/> 留学経験 | <input type="checkbox"/> 指導教授(【韓】指導(担任)教授) |
| <input type="checkbox"/> 指導教授以外の専攻教員(【韓】指導(担任)教授以外の学科教員) | |
| <input type="checkbox"/> 専攻以外の教員 | <input type="checkbox"/> 親からの情報 |
| <input type="checkbox"/> 大学の就職/進路センター | <input type="checkbox"/> 専攻の先輩からの情報 |
| <input type="checkbox"/> 就職情報/支援サイト(リクナビ・マイナビなど) | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記述してください) |

【質問⑤】 あなたの専攻を生かすことができる就職/進路として、どのような業種や職種があると考えますか？知っていること、聞いたことがあるものについてできるだけ多く記入してください。

【質問⑥】 あなたが実際に就職・進路先として決定した業種を次から☑してください。

- | | | |
|---|--|--|
| <input type="checkbox"/> 農業・林業 | <input type="checkbox"/> 漁業 | <input type="checkbox"/> 鉱業、採石業、砂利採取業 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 電気、ガス・熱供給、水道業 |
| <input type="checkbox"/> 情報通信業 | <input type="checkbox"/> 運輸業、郵便業 | <input type="checkbox"/> 卸売業、小売業 |
| <input type="checkbox"/> 金融業、保険業 | <input type="checkbox"/> 不動産業、物品賃貸業 | <input type="checkbox"/> 学術研究、専門・サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 教育、学習支援業 | <input type="checkbox"/> 生活関連サービス業 | <input type="checkbox"/> 宿泊業、飲食サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 医療、福祉 | <input type="checkbox"/> 複合サービス業 | <input type="checkbox"/> サービス業(他に分類されないもの) |
| <input type="checkbox"/> 公務(他に分類されるものを除く) | | <input type="checkbox"/> 分類不能の産業 |
| <input type="checkbox"/> 進学 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記述願います) _____ | |

【質問⑦】 決定した就職/進路で、韓国語(【韓】日本語)を使用する機会はあるそうですか。当てはまるものに☑してください。

- 使用の機会がありそう 使用の機会はなさそう

【質問⑧】 決定した就職/進路で、具体的にを行うと思われる仕事内容を書いてください。

【質問⑨】 最終的に決定した就職・進路を決めるまでに、挑戦した業種を次から☑してください。

- | | | |
|---|--|--|
| <input type="checkbox"/> 農業・林業 | <input type="checkbox"/> 漁業 | <input type="checkbox"/> 鉱業、採石業、砂利採取業 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 電気、ガス・熱供給、水道業 |
| <input type="checkbox"/> 情報通信業 | <input type="checkbox"/> 運輸業、郵便業 | <input type="checkbox"/> 卸売業、小売業 |
| <input type="checkbox"/> 金融業、保険業 | <input type="checkbox"/> 不動産業、物品賃貸業 | <input type="checkbox"/> 学術研究、専門・サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 教育、学習支援業 | <input type="checkbox"/> 生活関連サービス業 | <input type="checkbox"/> 宿泊業、飲食サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 医療、福祉 | <input type="checkbox"/> 複合サービス業 | <input type="checkbox"/> サービス業(他に分類されないもの) |
| <input type="checkbox"/> 公務(他に分類されるものを除く) | | <input type="checkbox"/> 分類不能の産業 |
| <input type="checkbox"/> 進学 | <input type="checkbox"/> その他(具体的に記述願います) _____ | |

ご協力、ありがとうございました。

松崎真日(福岡大学人文学部 准教授)

磯野英治(名古屋商科大学国際学部 准教授)

桧校裕朗(韓国 極東大学社会科学学部 教授)

研究協力同意書

本研究は文部科学省科学研究費「日韓の韓国語専攻・日本語専攻の学生が架け橋となるためのキャリア支援に関する研究」の助成を受けて、行っているものです。

本研究の目的は、韓国語および韓国学を選考する大学生の進路意識を調査し、韓国語や韓国学を選考する大学生のニーズに適う進路情報の提供を図っていくことにあります。

本質問紙にお答えいただいた内容は、上記の研究目的にのみ使用します。大学名、氏名等の個人情報はすべて、「A大学」「a氏」のように個人情報が特定されない形に処理します。

研究にご協力頂けますか？当てはまるものに☑をつけてください。

- 研究に協力する 研究に協力しない

[Abstract]

**Perceptions Regarding Job Seeking Among Japanese / Korean Language Major Students
in Japan and South Korea: A Basic Survey on Career Support**

While “Career Education” and “Career Support” exist in higher education institutions in Japan and South Korea, these programs are only offered in liberal arts courses and career support groups, and are not included in major courses. The absence of career education in Korean language majors in Japan, and Japanese language majors in South Korea, is also evident. “Career education” and “career support” may appear in documents discussing Korean language education in Japan, or Japanese language education in South Korea as terms used when comparing the educational programs in higher education institutions in Japan and South Korea. However, there are very few cases where discussions focus on career education or support for students majoring in those respective languages.

A survey was conducted among Japanese students majoring in Korean language/ Korean studies in Japan, and South Korean students majoring in Japanese language/ Japanese studies, in order to evaluate their perceptions regarding job seeking. The survey was carried out among 79 Japanese students from 8 universities in Japan, and 102 South Korean students from 12 universities in South Korea. The result shows that students in Japan and South Korea have different perceptions regarding job seeking processes, from preparation of job seeking until career selection (making decisions based on their majors, career planning, and actual career paths etc.). On the other hand, the following points were confirmed for students and institutions of both countries: Potential for providing support in major programs in order to make career path decisions based on majors; Experiences of studying abroad greatly influence career path decisions based on majors. At the same time, the existing challenges with providing information relating to employment/ career paths became clear, while the need to enhance career support-focused specialized education in university faculties also became evident.

Key Words : Japanese language major, Korean language major, career support, perception survey, major fields and career paths

◆ 松崎真日(Matsuzaki, Mahiru)

- 소속 : 福岡大学 准教授
- E-mail : mmatsuzaki@fukuoka-u.ac.jp

◆ 磯野英治(Isono, Hideharu)

- 소속 : 名古屋商科大学 准教授
- E-mail : hisono@nucba.ac.jp

◆ 檢校裕朗(Kenko, Hiroaki)

- 소속 : 極東大学校 教授
- E-mail : kenko26@gmail.com

논문투고일	2020. 9. 20
심사개시일	2020. 10. 17
심사완료일	2020. 10. 25
계재확정	2020. 10. 27